

## プリンタ装置

This application claims benefit of Japanese Application No.2000-350117 filed in Japan on November 16, 2000 ,Japanese Application No.2000-350118 filed in Japan on November 16, 2000 ,Japanese Application No.2000-350119 filed in Japan on November 16, 2000 ,the contents of which are incorporated by this reference.

## BACKGROUND OF THE INVENTION

### 1. Field of the Invention

この発明は、プリント動作電源として着脱自在なバッテリーを備えた昇華型のサーマルプリンタ等のプリンタ装置に関し、特に印刷濃度を安定させるためにサーマルヘッドへの通電の補正を行いあるいはサーマルヘッドに対する高精度な印画率補正処理を可能とすることにより、安定した画質でのプリントを可能にし、プリント性能の向上化及び低コストでの小型化を実現することができるプリンタ装置に関する。

### 2. Description of Related Art

近年、パーソナルコンピュータ、カメラ一体型ビデオテープレコーダ、電子スチルカメラ等からの映像をハードコピーする装置として、フルカラー化によって高精細な画像表示を可能にした感熱転写型のプリンタ装置が普及している。

従来の感熱転写型のプリンタ装置においては、記録紙をプラテンローラとサーマルヘッドとの間にインクシートと共に圧接挟持する。インクシートはベースフィルムに複数色の熱昇華性染料を塗布したものであり、熱昇華性染料が記録紙と圧着されるように配置される。サーマルヘッドの一面には複数の発熱体が設けられていて、サーマルヘッドに通電することにより、これらの発熱体が印刷データに応じて適宜発熱し、ベースフィルムを介して熱昇華性染料を加熱する。これにより、熱昇華性染料が昇華して、記録紙に転写記録されるようになっている。

この種のプリンタ装置においては、従来より、印字品質や印画品質の向上を図るとともにコストの低減を図ることを目的とした提案が数多くなされており、例えば特開平5-238046号公報に記載のバッテリー駆動方式プリンタや、特開平7-195729号公報に記載の感熱転写記録装置などが挙げられる。

前記特開平5-238046号公報に記載のバッテリー駆動方式プリンタは、印画用電源としてリチャージャブルバッテリーを備え、非印画時に、このリチャージャブルバッテリーに、AC整流部とスイッチング部と電圧コントロール部と二次側整流部とを含んでなる整流直流電圧源により充電を行い、印画時に放電して印画電力を供給するようにしている。さらに、このときの放電による電圧降下を検出して、上記整流直流電圧源の出力がその電圧降下分となるように電圧コントロール部により制御し、充電/重畳切替部、重畳部を介してバッテリーに重畳して補正するようにしている。これにより、印画電圧を安定させて、印画品質を向上させることが可能となっている。

また、上記特開平7-195729号公報に記載の感熱転写記録装置は、サーマルヘッドを用いて熱的な記録を行うものであって、備えられた印画電圧センシング部によってサーマルヘッドに印加された電圧を検出し、印画電圧センシング部の出力電圧のピーク値を検出するピーク値検出部の検出力電圧と印画電圧設定部により設定された電圧とを加算する電圧加算回路の出力電圧に基づいて、サーマルヘッドに印加する電圧を生成している。つまり、サーマルヘッドに印加された電圧を検出し、サーマルヘッドの出力電圧が一定になるように印加電圧を制御して印字濃度を安定させるようにしている。

さらに、印字品質や印画品質の向上化を目的とした提案の他の例としては、例えば特開平6-91916号公報に記載の濃度階調制御型プリンタや、特開2000-135809号公報に記載の画像形成装置などが挙げられる。

前記特開平6-91916号公報に記載の濃度階調制御型プリンタは、発熱抵抗素子に通電させてその発熱エネルギーにより画像を記録紙に記録するものであって、計数された通電素子数に基づいて電力補償を行い、常に一定で良好な色再現性を得るようにしている。

また、特開2000-135809号公報に記載の画像形成装置は、熱転写ブ

10054667.111301

リントや感熱プリンタ等のサーマルヘッドを用いており、1ライン分のドット数に相当する発熱抵抗体の内の同時に駆動する発熱抵抗体の個数が多いときほど、各発熱抵抗体への供給電流が少なくなること起因するライン間の濃度むらを防止するようにしたものであり、1ライン分の印画データに基づいた算出も行っている。これにより、通電パルスのパルス幅によって濃度補正を行うことができ、且つライン間の白すじ等の濃度むらの発生を防止することができるようにしている。

ところで、このようなプリンタ装置では、安価でしかも品位の良いプリントを得ることができるプリンタ装置が望まれる他に、モバイルプリンタ装置としていつでも何処でもプリントできるように、小型軽量で携帯可能なプリンタ装置についても強く望まれている。

このような要求に応じた携帯用のプリンタ装置を実現するためには、AC電源のない場所でも動作可能としてその有用性を向上させるために、バッテリーのみで駆動可能であることが重要な要件となる。また、画像印刷についてみれば、その画質の高さから上述した昇華型のような熱転写式のプリンタ装置が望まれる。

しかしながら、このような熱転写式のプリンタ装置は、熱転写印刷の際に大量の電力が必要である一方、バッテリー電源の容量には限りがあることから、その使用途中において電圧が降下することは避けられない。AC電源を使用するものであれば、供給電圧は常に一定であるために印刷画質のバラツキも小さいものとなるが、バッテリーのみで熱転写式の印刷を行う場合には、バッテリーの消耗度に依存した大きな電圧降下にも対応して、十分に安定した画質での印刷を如何に実現させるかが大きな課題である。

このような要求を考慮すると、上記特開平5-238046号公報に記載されたバッテリー駆動方式プリンタでは、常に所定の印画電圧を維持することはできないものの、ACからの入力が必要で構成されており、バッテリーのみでの駆動は行えないといった課題があった。

また、上記特開平7-195729号公報に記載された感熱転写記録装置では、サーマルヘッドに印加された電圧を検出し、サーマルヘッドの出力電圧が一定になるように印加電圧を制御して印字濃度を安定する構成の他に、サーマルヘッ

ドへの印加電圧を正確に測定するために電圧のピーク値を検出するピーク値検出部を用いた構成が用いられているが、バッテリーのみでの駆動を指向した構成ではなく、バッテリー電源の出力電圧の変動に対応する補正処理等の技術については何ら述べられていない。

こうして従来の昇華型の熱転写式プリンタ装置では、電源としてバッテリーを採用した場合には、バッテリーの消耗度に依存した大きな電圧降下に対応することができず、十分に安定した画質での印刷を行うことができないといった課題があった。

また、熱昇華型のプリンタ装置に用いられるサーマルヘッドでは、印画する際にサーマルヘッドに与えるエネルギー量に関して、一般に、以下に示すような関がある。

【数式1】

$$E = k V^2 t / R$$

この数式1において、Eはある印画濃度で印刷することができるエネルギー量、kはヘッドの熱効率、Vはヘッドに印加する電圧、Rはヘッド抵抗値、tはヘッドへの通電時間をそれぞれ示している。

上記数式1の関係を有するプリンタ装置においては、印画時の最大濃度となるEをどのように設定するかという点と、サーマルヘッドへの通電時間をどのくらいにするかという点は、重要な要素である。最大濃度Eは、ある一定値として予め定められており、一方、通電時間tは、長くすればヘッド抵抗値Rを大きくすることは可能ではあるが、印刷時間自体が長くなってしまうことになる。カラープリンタの場合、印刷動作は、例えばイエロー（Y）、マゼンタ（M）、シアン（C）、透明のオーバーコート（OP）の4色のインクについてそれぞれ行われるために、4回の印刷動作が行われることになり、通電時間を長くすることは、印刷時間の長大化を招き実用性を損なうことになって採用するのは望ましくない。このために、従来は、通電時間を短く設定して、これに伴い、サーマルヘッドに印加する電圧を2.2～2.8V、ヘッド抵抗値を7～10kΩ程度となるようにしていた。つまり、サーマルヘッドを含む回路においては、ヘッドそのものの抵

10054667.11301

抗値に加えて回路自体が有する抵抗成分が存在するために、電圧を高くし且つヘッド抵抗値そのものも高く設定する方が、電力ロスを少なくすることができるからである。供給電力が十分であれば、そのような電圧値・抵抗値の設定が有利である。

しかしながら、携帯用のプリンタにあつては、持ち運ぶ際の携帯性を考慮すると、あまり大きく重いバッテリーを使用することはできない。電源電圧24Vを実現するにはニッケル水素2次電池を直列に20本接続しなければならないが、これでは到底、携帯用のプリンタの体をなさない。すなわち、携帯性を考慮して電池を選択すれば、電源電圧としては7.2V~7.6V程度のものとなる。

この電源電圧をDC/DCコンバータで昇圧して従来と同様の22~28Vとすれば、上述した理由による電力ロスは解消されるものの、今度は新たにDC/DCコンバータによる巨大な電力ロスが発生してしまい、やはり、モバイルプリンタとしての最適な電源を実現することはできない。すなわち、DC/DCコンバータに起因する巨大な電力ロス、及びDC/DCコンバータ自体が占有するスペース・重量・その使用に伴う発熱の発生等の存在を考慮すれば、電源電圧をそのままサーマルヘッドに印加する構成とし、これに対応するためにサーマルヘッドの抵抗値を巧みに設定するようにして、携帯性を最大限に満足することができる熱昇華型プリンタ装置を実現することが考えられる。特に、サーマルヘッドにおけるインクの印刷濃度を一定にするために、印画率補正等の補正処理を行う補正処理手段は、このような要求を実現するには有効である。

図15は関連技術の通常電源のプリンタ装置に対応した構成の概略を示す回路図であり、関連技術のプリンタにおける課題を説明するために、本発明の実施形態に係る図13と図14も参照する。

熱昇華型プリンタ装置の基本的な回路の構成の概略は、例えば、図13に示すようになる。つまり、該プリンタ装置は、電源Eと、回路成分の内部抵抗を意味する抵抗 $R_c$ と、サーマルヘッドが有する複数の発熱抵抗体に対応した抵抗値を示す抵抗 $R_h$ と、を有する回路構成となる。なお、サーマルヘッドが有する複数の発熱抵抗体は、例えば960個のドット数に対応して設けられている。

そこで、上記構成のプリンタ装置を携帯用に適した条件に当てはめると、前記

電源Eは上述したように7.6Vとなり、さらに抵抗Rcは1Ω、ヘッド素子抵抗である抵抗Rhは750Ωとなる。この場合のドットに対応する発熱抵抗体（ヘッドということもある）のオン数をNとし、該ヘッドに流れる電流をiとする。

このように携帯用として適した条件で構成されたプリンタ装置において、例えば、960ドットでなるヘッドの全てのドットがオンしたときのヘッド1素子当たりの電流値iは、

【数式2】

$$i = \frac{7.6}{R_{ct} + \frac{R_h}{N}} \times \frac{1}{N} = \frac{7.6}{1 + \frac{750}{960}} \times \frac{1}{960} \times 1000 = 4.444 \text{ (mA)}$$

となる。

また、ヘッドが1ドットだけオンしたときの電流値iは、

【数式3】

$$i = \frac{7.6}{R_{ct} + \frac{R_h}{N}} \times \frac{1}{N} = \frac{7.6}{1 + 750} \times \frac{1}{1} \times 1000 = 10.120 \text{ (mA)}$$

となる。

サーマルヘッドにおけるインクの印刷濃度を一定にするためには、サーマルヘッドが備えている複数のヘッド（発熱抵抗体）の内の何個がオンしているかを検出し、検出結果に応じて電圧を調整する必要があるが、電源Eの電圧値が決まっているために電圧調整を行うことができない。従って、複数のヘッドのオン/オフにより全抵抗値の変動が生じた場合でも、ヘッド1素子当たりの電流値を一定にしなければならず、そのための印画率補正を行う必要がある。

つまり、この場合の印画率補正処理では、印刷濃度を確実に再現するために、最低電流（ヘッドオン数Nが960のときの電流）を100%とすると、ヘッドオン数が1である場合には、前記数式2、数式3で求められた数値から、 $4.444 / 10.120 = 43.9\%$ の補正值となる。このときのヘッドのオン数に応じた印画率補正係数を示したのが図14である。すなわち、ヘッドがオンしているドット数に応じて、電流を最大56%減らさなければ素子当たりのエネルギーを一定にすることはできず、その補正幅は大きなものとなる。

一方、通常電源である電源Eを24Vとし、さらに抵抗Rcを1Ω、ヘッド素子抵抗である抵抗Rを7000Ωとする通常電源を用いたプリンタ装置と比較すると、このようなプリンタ装置において、例えばヘッドが960ドット全てオンしたときのヘッド1素子当たりの電流値iは、

【数式4】

$$i = \frac{24}{1 + \frac{7000}{960}} \times \frac{1}{960} \times 1000 \approx 3.015 \text{ (mA)}$$

となる。

また、ヘッドが1ドットだけオンしたときの電流値iは、

【数式5】

$$i = \frac{24}{1 + 7000} \times \frac{1}{1} \times 1000 \approx 3.428 \text{ (mA)}$$

となる。

そして、この場合の印画率補正処理では、印刷濃度を確実に再現するために、最低電流（ヘッドオン数Nが960のときの電流）を100%とすると、ヘッドオン数が1である場合には、前記数式4、数式5で求められた数値から、 $3.015 / 3.428 \approx 88.0\%$ の補正值となる。つまり、この通常電源を用いたプリンタ装置では、補正幅は小さいものとなり、また仮に印画率補正処理を行わなくても、最大で12%のエネルギー差しか発生しないことになる。

こうして携帯性を考慮して、上述したように、例えば電源電圧として7.6V、サーマルヘッドの抵抗値として750Ωを採用してプリンタ装置を構成すると、前述したような補正值となり、その補正幅は、通常電源24V、サーマルヘッド抵抗値7000Ωとして構成されたプリンタ装置よりもきわめて大きくなってしまふことになる。このように補正幅が大きくなると、ヘッド各素子を発熱させて印画するヘッド駆動に伴って、ヘッド内に残留する熱を如何に制御するかが大きな課題となる。

このような要求を考慮すると、補正幅が小さくて済む電源電圧24V、サーマルヘッド抵抗値7000Ωのプリンタ装置の場合であれば、各発熱抵抗体素子毎にいくらの階調を印画すればどれ程の残留熱が発生するかを予測して、各発熱抵

抗体素子毎に制御することも可能ではある。しかし、上述のように、補正幅の大きい電源電圧 7.6 V、サーマルヘッド抵抗値 750  $\Omega$  のような構成のプリンタ装置では、このような各発熱抵抗抗体素子単独の残留予測制御では高精度の補正を行うことができない。

また、前記特開平 6-91916 号公報に記載された濃度階調制御型プリンタでは、計数された通電素子数に基づいて電力補償を行うことにより、常に一定で良好な色再現性を得ることができる。しかし、この装置で行われている電力補償は、通電させる発熱抵抗抗体素子数を計測して、RAM に格納されていた通電素子数データを基にヘッド平均抵抗値を補正し、このヘッド抵抗値補正データを使って発熱抵抗抗体素子の電力制御を行うのみであり、それ以上の高精度な補償を行うことはできないという課題があった。

また、前記特開 2000-135809 号公報に記載された画像形成装置では、1 ライン分のドット数に相当する発熱抵抗体の内の同時に駆動する発熱抵抗体の個数が多いときほど、各発熱抵抗体への供給電流が少なくなることに起因するライン間の濃度むらを防止する技術が用いられており、1 ライン分の印画データに基づいた算出も行っているが、携帯に好適なバッテリー電源を用いる構成に対する補正処理については何等言及されておらず、すなわち、携帯用のプリンタ装置における十分な補正処理を行うことはできないという課題があった。

さらに、携帯に好適なバッテリー電源を利用して、上述したように、補正幅の大きい電源電圧 7.6 V、サーマルヘッド抵抗値 750  $\Omega$  のようなプリンタ装置の構成では、各発熱抵抗抗体素子単独の残留予測制御では高精度の補正を行うことができないという課題があった。

## SUMMARY OF THE INVENTION

この発明の目的は、バッテリーの消耗度に依存した大きな電圧降下にも対応すべくサーマルヘッドでの印画濃度を一定となるように補正制御することで、十分に安定した画質でのプリントを行い、プリント性能の向上化及び低コストでの小型化を実現できるプリンタ装置の提供するにある。



また、この発明の目的は、携帯に適したバッテリー電源を用い、電流値の補正幅が広くならざるを得ない構成でも、高精度な補正処理を行うことができ、プリント性能の向上化及び低コストでの小型化を実現できるプリンタ装置の提供するにある。

簡略にこの発明は、画像データに基づくカラー画像を用紙に印刷するべく複数の色成分のインクを順次この用紙に転写するためのサーマルヘッドと、バッテリー電源手段と、前記バッテリー電源手段から供給される電圧値を検出する電圧値検出手段と、前記各色成分のインクをそれぞれ用紙に印刷する直前のタイミングにおいて前記バッテリー電源手段からの電力を負荷に供給しその直後の所定のタイミングでこの電圧値を前記電圧値検出手段で検出するとともに、この検出された検出結果に対応して前記サーマルヘッドにおけるインクの印刷濃度を前記バッテリー電源手段からの供給電圧の高低に関わらず一定となすべく補正を行わせる制御手段と、を含むプリンタ装置である。

また、この発明は、画像データに基づくカラー画像を用紙に印刷するべく複数の色成分のインクを順次この用紙に転写するためのサーマルヘッドと、バッテリー電源手段と、第1の負荷に通電を行うことによって前記バッテリー電源手段のバッテリー残量レベルを検出するバッテリー検出手段と、前記バッテリー検出手段で検出されたバッテリー残量レベルが印刷に必要なバッテリーレベル以下であると判断された場合に少なくともその旨の表示を行う表示手段と、前記バッテリー電源手段から供給される電圧値を検出する電圧値検出手段と、前記各色成分のインクをそれぞれ用紙に印刷する直前のタイミングにおいて前記バッテリー電源手段からの電力を前記第1の負荷より小さい第2の負荷に供給しその直後の所定のタイミングでこの電圧値を前記電圧値検出手段で検出するとともに、この検出された検出結果に対応して前記サーマルヘッドにおけるインクの印刷濃度を前記バッテリー電源手段からの供給電圧の高低に関わらず一定となすべく補正を行わせる制御手段と、を含むプリンタ装置である。

さらに、この発明は、画像データに基づくカラー画像を用紙に印刷するべく複数の色成分のインクを順次この用紙に転写するためのサーマルヘッドと、バッテ

リ電源手段と、前記バッテリー電源手段から供給される電圧値を検出する電圧値検出手段と、前記各色成分のインクをそれぞれ用紙に印刷する直前のタイミングにおいて前記バッテリー電源手段からの電力を負荷に供給しその直後の所定のタイミングでこの電圧値を前記電圧値検出手段で検出するとともに、この検出された検出結果に対応して前記サーマルヘッドにおけるインクの印刷濃度を前記バッテリー電源手段からの供給電圧の高低に関わらず一定となすべく補正を行わせる制御手段と、を含み、前記制御手段による補正は、前記電圧検出手段で検出される電圧値に対応して補正値を決定するとともに、前記補正値は前記各色成分について同じ電圧値が検出された際には同じ補正値となるように決定されるプリンタ装置である。

そして、この発明は、画像データに基づくカラー画像を用紙に印刷するべく複数の色成分のインクを順次この用紙に転写するためのサーマルヘッドと、バッテリー電源手段と、前記バッテリー電源手段から供給される電圧値を検出する電圧値検出手段と、前記各色成分のインクをそれぞれ用紙に印刷する直前のタイミングにおいて前記バッテリー電源手段からの電力を負荷に供給しその直後の所定のタイミングでこの電圧値を前記電圧値検出手段で検出するとともに、この検出された検出結果に対応して前記サーマルヘッドにおけるインクの印刷濃度を前記バッテリー電源手段からの供給電圧の高低に関わらず一定となすべく補正を行わせる制御手段と、を含み、前記制御手段による補正は、前記電圧検出手段で検出される電圧値が第1の電圧値である場合に最大濃度の印刷を行うべく設定されているプリンタ装置である。

加えて、この発明は、用紙に画像データに基づくカラー画像を印刷するための複数の発熱素子を有するサーマルヘッドと、前記画像データのうちの1ライン分の画像データにおける各階調毎の印画率を算出しこの印画率に基づく補正値を決定する第1の補正値決定手段と、前記1ライン分の画像データを印刷する際に前記発熱素子に対して発熱を行わせて印刷動作を行わせる各発熱素子毎の階調データの全発熱素子分の全データに基づいて演算を行いこの演算結果に基づく補正値を決定する第2の補正値決定手段と、前記第1及び第2の補正値決定手段で決定された補正値に基づいて前記各発熱素子の発熱量を制御する制御手段と、を含む

プリンタ装置である。

The above and other objects, features and advantages of the invention will become more clearly understood from the following description referring to the accompanying drawings.

## BRIEF DESCRIPTION OF THE DRAWINGS

図 1 は、本発明の第 1 の実施の形態におけるプリンタ装置の全体的な構成を示す分解斜視図。

図 2 は、第 1 の実施の形態におけるプリンタ装置の内部の主要な構成を示す断面図。

図 3 は、第 1 の実施の形態のプリンタ装置に搭載された主要部分の電氣的な回路構成を示すブロック図。

図 4 は、第 1 の実施の形態において、CPU における制御動作例を示すフローチャート。

図 5 は、第 1 の実施の形態の特徴となる電圧補正に伴う電圧値取得動作を説明するためのタイミングチャート。

図 6 は、上記図 5 に示すプレヒート時の印加電圧パルスを拡大して示すタイミングチャート。

図 7 は、第 1 の実施の形態において、電圧補正処理時に使用されるテーブルデータを示す特性図。

図 8 は、本発明の第 2 の実施の形態のプリンタ装置に搭載された主要部分の電氣的な回路構成を示すブロック図。

図 9 は、第 2 の実施の形態において、印画する 1 ライン中の画像データにおけるヘッドオン数と階調との関係を示す線図。

図 10 は、第 2 の実施の形態において、他の 1 ライン中の画像データにおけるヘッドオン数と階調との関係を示す線図。

図 11 は、第 2 の実施の形態の特徴となる印画率補正方法を説明するための線

図。

図 1 2 は、第 2 の実施の形態において、印画率補正処理時に使用される印画率補正係数のテーブルデータを示す特性図。

図 1 3 は、第 2 の実施の形態において、携帯用として適した熱昇華型プリンタ装置の基本構成の概略を示す回路図。

図 1 4 は、第 2 の実施の形態において、印画率補正処理に使用される印画率補正計数のテーブルデータを示す特性図。

図 1 5 は、従来の通常電源のプリンタ装置に対応した構成の概略を示す回路図。

## DETAILED DESCRIPTION OF PREFERRED EMBODIMENT (S)

以下、図面を参照して本発明の実施の形態を説明する。

図 1 から図 7 は本発明の第 1 の実施の形態を示したものであり、図 1 はプリンタ装置の全体的な構成を示す分解斜視図、図 2 はプリンタ装置の内部の主要な構成を示す断面図、図 3 は図 1 の装置に搭載された主要部分の電気的な回路構成を示すブロック図、図 4 は CPU における制御動作例を示すフローチャート、図 5 は電圧補正に伴う電圧値取得動作を説明するためのタイミングチャート、図 6 は上記図 5 に示すプレヒート時の印加電圧パルスを拡大して示すタイミングチャート、図 7 は電圧補正処理時に使用されるテーブルデータを示す特性図である。

まず図 1 と図 2 を参照して、プリンタ装置の構成の概略について説明する。

図 1 に示すように、このプリンタ装置 1 は、プリント機能に必要な各種のメカニカル機構や構成部品、基板等を収容する本体カバー 2 と、この本体カバー 2 の下部に取り付けられる本体底部 3 とにより、プリンタ装置 1 の主要な外観部分をなす筐体を構成している。

前記プリンタ装置 1 のフロント側（図中に示す左側前方）の本体カバー 2 には、複数の記録紙 6 を収納することが可能な給紙カセット 5 を装着するための給紙カセット装着開口 2 a が形成され、この給紙カセット装着開口 2 a を介して給紙

カセット5が着脱自在に装着されるようになっている。

また、本体底部3の対応する部位には、前記給紙カセット5を装置から取り外した際に前記給紙カセット装着開口2aを閉じるための開閉蓋4aが開閉可能に設けられている。この開閉蓋4aには、閉じた際に、その閉じた状態を保持するためのロック手段4cが設けられており、このロック手段4cと本体カバー2の対応する位置に設けられた係止手段（図示せず）とによって、該開閉蓋4aがロックされるようになっている。

本体カバー2のフロント側からみて右側の側面には、開口2fが形成され、この開口2fを介して露出し且つ装置内部に配設されたメインフレーム12bには、インクリボン7aが巻回されてなるインクカセット7を装着するためのインクカセット挿入口2bが形成されている。なお、インクリボン7aは、イエロー（Y）、マゼンタ（M）、シアン（C）、透明なオーバーコート用インク（OP）等の複数色の熱転写インクが、順次繰り返して塗布されたものである。

また、本体カバー2には、この開口2fを閉じるための開閉蓋4bが開閉可能に設けられており、前記開閉蓋4aと同様に、閉じた際に、その閉じた状態を保持するためのロック手段4dが設けられ、このロック手段4dと本体カバー2の対応する位置に設けられた係止手段（図示せず）とによって、該開閉蓋4bがロックされるようになっている。

本体カバー2の背面側（図中に示す右側後方）の部位には、携帯する際に必要な駆動電源供給手段としてのバッテリー8を着脱自在に取り付けるためのバッテリー取付用溝2cが形成されている。このバッテリー取付用溝2cには、バッテリー8の取付面に形成された取付部8aが嵌合してこれに取り付けられるようになっており、またこのバッテリー取付部8aの上部に設けられた係止部8cとバッテリー取付用溝2cの対応する位置に設けられた係止手段（図示せず）とが係合することによって、バッテリー8の取付状態を保持することが可能である。

また、バッテリー8の取付部8aの面上には、該バッテリー8に蓄積された電力をプリンタ装置1の内部に供給するための複数の電池切片8bが設けられており、該バッテリー8をバッテリー取付用溝2cに取り付けた際に、該プリンタ装置1の背面側に設けられた電池切片（図示せず）と接触して電気的に導通するこ

により、プリンタ装置1の内部へと電力を供給することができるようになっている。

本体カバー2の上面には、操作パネル2d、表示部2e、第1及び第2のメモリカード挿入口2h、2i等が設けられている。操作パネル2dは、該プリンタ装置1に対して各種の制御動作実行命令を指示する指示手段としての操作ボタン30a～30iと、プリント動作進行に係わる点灯表示を行うLED（発光ダイオード）などで構成される表示ランプ31a～31dとを備えて構成されている。

操作ボタン30a～30iには、電源投入及び電源オフを指示する電源ボタン30a、プリント動作を指示するプリントボタン30b、プリントモード（標準プリント、インデックスプリント、全コマプリント、DPOFプリントなど）を選択するプリントモード選択ボタン30c、画質（標準、ソフト、シャープ）を選択するシャープネスボタン30d、分割プリントの分割数（分割無し、2、4、9、16画面）を選択する分割ボタン30e、日付プリント及び日付プリント表示形態を指定する日付ボタン30f、メモリーカード9の切換を行うカード切換ボタン30g、プリントコマ番指定モードとプリント枚数（コピー枚数）指定モードを切り換えるコマ番／プリント枚数切換ボタン30h、コマ番又はプリント枚数の数を増減する（+）ボタン及び（-）ボタン30iなどがある。

また、表示ランプ31a～31dには、プリント中であることを点灯表示するプリント中ランプ31a、インクリボン終了、給紙カセット無し、及び記録紙無しなどを点灯表示するリボン／ペーパーランプ31b、リボンカセットの開閉蓋開き、通信エラーなどを点灯表示するエラーランプ31c、メモリーカード9かのデータ読み込み（アクセス中）や充電電池（図示せず）及びDCコネクタ10が接続した状態で電源ボタン30aによる電源オフを行ったときに充電が開始実行されていることを点灯表示するアクセス／充電ランプ31dなどがある。

また、この操作パネル2d中の切欠部分には、前記表示部2eが配置されている。この表示部2eは、例えばLCDで構成されていて、該プリンタ装置1によるプリント動作時の制御処理内容（プリントモード実施形態、画質モード指定、分割モード指定、メモリーカード切換指定、日付プリント指定、日付プリント表示

形態／切換指定，ファイル名，コマ板／プリント枚数指定，コマ番又はプリント枚数表示又はDPOFの設定無しを意味する文字表示，及びバッテリー残量表示など）を表示するようになっている。

前記第1及び第2のメモ리카ード挿入口2h，2iは、本体内部にそれぞれ設けられたソケット（図示せず）に対応して形成されたもので、第1，第2のメモ리카ード挿入口2h，2iを介してプリントする画像情報信号（プリント制御情報が含まれることもある）を記録した異なる2種類の第1，第2のメモ리카ード9a，9bがそれぞれ挿入される。また、第1，第2のメモ리카ード2h，2iは、対応するソケットに対して着脱自在に装着可能となっている。なお、第1のメモ리카ード9aとしては、例えばスマートメディア（SM）が用いられており、また、第2のメモ리카ード9bとしては、例えばコンパクトフラッシュ（CF）が用いられている。本実施の形態では、メモ리카ードの種類やメモ리카ードの数についてはこれに限定されるものではなく、勿論他のメモ리카ード等を組み合わせて構成しても良い。

このように、第1，第2のメモ리카ード挿入口2h，2iとともに設けられた各スロット（図示せず）に、第1のメモ리카ード9aあるいは第2のメモ리카ード9bを装着することにより、何れかのメモ리카ード9からプリントするのに必要な画像情報信号やプリント制御情報を取り込むことが可能となる。

また、本体カバー2の前記第1，第2のメモ리카ード挿入口2h，2iの近傍には、これらのメモ리카ード挿入口2h，2iを塞ぐためのダストカバー2jが開閉可能に設けられている。このダストカバー2jは、本体カバー2の所定箇所に設けられた切欠2kによって、その端部を摘み易くしており、容易に開くことができる。このダストカバー2jを開くことにより、前記第1，第2のメモ리카ード挿入口2h，2iが露出され、また閉じるときには、開閉側端部に突設された係合爪2mが、本体側に設けられた係合孔2nに係入するようになっており、該ダストカバー2jを閉じることでダスト等の侵入を防止している。

また、第2のメモ리카ード挿入口2iの近傍には、例えばコンパクトフラッシュ等の第2のメモ리카ード9bをイジェクトするためのイジェクトボタン2lが設けられている。第2のメモ리카ード9bをイジェクトする場合には、このイジ

エクトボタン 21 を押下することにより、第 2 のメモリカード 9 b がイジェクトされる。

一方、本体カバー 2 のインクカセット挿入口 2 b が設けられている逆側の側面の後端部には、通常の AC 電源を直流 (DC) に変換して該プリンタ装置 1 内に供給するための DC コネクタ 10 が着脱自在に取り付けられるようになっている。この DC コネクタ 10 は、AC コンセント 10 a により一般の AC 電源を取り込み、この取り込んだ AC 電源を AC コンセント 10 a 内、あるいはこの AC コンセント 10 a と DC コネクタ 10 との間に設けられた AC/DC 変換器 (図示せず) によって直流電源 (DC) に変換し、該プリンタ装置 1 の駆動電力として装置内に供給する。

また、本実施の形態のプリンタ装置 1 では、単に第 1、第 2 のメモリカード 9 a、9 b により画像情報信号を取り込むだけではなく、例えばパーソナルコンピュータやビデオ記録再生機器等からの画像情報信号を取り込むことも可能である。つまり、本体カバー 2 の側面の手前側部分には、上述したパーソナルコンピュータやビデオ記録再生機器等に接続された PC コネクタ 11 を着脱自在に装着可能な PC 用コネクタ (図示せず) が設けられている。従って、本実施の形態のプリンタ装置 1 では、第 1、第 2 のメモリカード 9 a、9 b の他にも各種画像機器等に接続された PC コネクタ 11 によって様々な画像情報信号を取り込むことができるために、使用範囲を拡大することが可能である。

また、プリンタ装置 1 に使用する給紙カセット 5 は、複数の記録紙 6 を収納可能であり、上面には取り外し可能なカバー 5 a が設けられている。このカバー 5 a は、給紙カセット 5 の挿入側先端部分を切り欠いて形成されており、この切欠部分を介して収納された複数の記録紙 6 の最上層が露出している。給紙カセット 5 を挿入するときに、給紙カセット 5 の先端部分による位置決めによってプリンタ装置 1 の内部に配置された給紙ローラ (図示せず) が、このカバー 5 a の切欠部分から露出している 1 枚の記録紙 6 上に当接する。そして、該給紙ローラが回転することにより、1 枚の記録紙 6 を確実に装置内部へと搬送することができるようになっている。

一方、基板 22 は、図 2 に示すように、該プリンタ装置 1 の底面側に配設され



ていて、プリント動作するのに必要な回路群、例えば記録紙送り制御用の I C 回路（図示せず）とインクリボン送り制御用の I C 回路（図示せず）との少なくとも一方を搭載した制御基板 2 2 a と、プリンタ装置 1 の一側面側に配置されるように前記制御基板 2 2 a に取り付けられ、バッテリー 8 の充電が可能な充電回路等を備えたパワー基板 2 2 b と、該パワー基板 2 2 b の背面側に並設され、前記第 1、第 2 のメモ리카ード 2 h、2 i を装着するソケット 8 2 a、8 2 b（図 3 参照）が取り付けられた媒体ソケットユニット基板 2 2 c と、を有して構成されている。

前記制御回路基板 2 2 a と前記パワー基板 2 2 b とは、図に示すように、前記制御回路基板 2 2 a の一端部側に設けられた接続手段としてのコネクタ 2 3 を介して、前記パワー基板 2 2 b の一端部側が接続される。また、前記制御回路基板 2 2 a と前記媒体ソケットユニット基板 2 2 c とは、前記制御回路基板 2 2 a の一端部側に設けられた接続手段としてのコネクタ 6 3 を介して、前記媒体ソケットユニット基板 2 2 c の一端部側が接続される。このように各基板が取り付けられることにより、基板 2 2 全体が略 L 字状に構成され、装置の小型化に適した配置の構成となる。

また、制御基板 2 2 a 上には、プリント動作するのに必要な回路群、例えば図示はしないが記録紙送り制御用の I C 回路やインクリボン送り制御用の I C 回路、また映像信号処理回路等の回路が搭載されている。また、制御基板 2 2 a 上の側端部には、P C コネクタ 1 1 を着脱自在に装着する P C 用コネクタが配設されている。さらに、制御基板 2 2 a 上の前面側端部には、該プリンタ装置 1 に搭載された各種の電子部品（図示せず）と電気的に接続するための複数のコネクタ（図示せず）が配設されている。なお、これらの回路やコネクタの間は、制御基板 2 2 a 上に必要な配線形態に基づいて設けられた印刷パターン 3 1 によって、電氣的に接続されるようになっている。

パワー基板 2 2 b は、コネクタ 2 3 によって前記制御基板 2 2 a と組み合わせるときに、全体として L 字状を呈するように構成されているが、このコネクタ 2 3 によって、前記制御基板 2 2 a 側の各種電子部品と電氣的に接続されるようになっている。また、パワー基板 2 2 b の内側の面上には、図示はしないが、パッ

テリ-8を充電するための充電回路や、サーマルヘッド20及びサーマルヘッド駆動機構等を制御するための制御用IC回路等が配設されるようになっている。さらに、パワー基板22bの側面側端部には、図示はしないが、サーマルヘッド駆動機構や大型コンデンサ等に対して電氣的接続を行うためのコネクタ（図示せず）が設けられている。

一方、媒体ソケット基板22cは、図2に示すように、第1のメモ리카ード用のソケット82aと第2のメモ리카ード用ソケット82bとが、取付部材61によってそれぞれ内側面に取り付けられている。この取付部材61は、前記パワー基板22bに取り付けられていて、該取付部材61の基端部と媒体ソケット基板22cとに共通してねじ64を螺合することにより、各ソケット82a、82bを固定している。

また、この媒体ソケットユニット基板22cは、各種のメモ리카ードの装着に伴って発生する押下力に対して、ある程度の強度を確保するために、その基端部が本体底部3の面上に取り付けられたサポート部材60に他のねじ64によって固定されている。つまり、このサポート部材60に前記媒体ソケットユニット基板22cが取り付けられることにより、各種のメモ리카ード9a、9bの装着に伴って生じる押下力から、機器の破損を防止することが可能となっている。

また、図示はしないが、前記媒体ソケットユニット基板22cの背面側には、前記パワー基板22bの充電回路と電氣的に接続された接続部材が配置されており、この接続部材には、バッテリー8の電池切片8bと接触して電氣的に接続するための電池切片が突出するように設けられている。従って、バッテリー8が本体カバー2のバッテリー取付用溝2cに装着された場合には、この接続部材の電池切片とバッテリー8の電池切片8bとが接触して導通することにより、バッテリー8の電力をプリンタ装置1本体内へと供給することが可能である。

このような構成により、配線長さの短縮を図って、プリンタ装置1の小型化及び軽量化を図ることが可能となり、携帯に最適なプリンタ装置を構成することができる。また、基板の製造工程を考慮した場合にも、基板22が3つの基板22a、22b、22cによって構成されているために、それぞれの基板の製造作業を分担して行うことができる。しかも、基板同士の組立も容易に行うことができ

るために、製造工程の簡略化を図ることが可能となり、コストの低減に大きく寄与することができる。

このような構成のプリンタ装置の基本的な動作を、主に図2を参照しながら説明する。

まず、給紙カセット5に収容されている複数枚の記録紙6の内の最上層の記録紙6が、給紙ローラ18によってプリンタ装置1の内部へと移送される。このとき、給紙カセット5のプリンタ装置側基端部がR形状に構成されているために、記録紙6は、給紙ローラ18の回転によって円滑に移送される。

プリンタ装置1の内部の前方に配置されたピンチローラ15及びグリップローラ40の前段には、上記メインフレーム12bに取り付けられた記録紙搬送経路43a、43bを形成するガイド板41a、41b、41cが設けられている。給紙ローラ18によって移送された記録紙6は、このガイド板41cに取り付けられたテーパー部材42を押し上げながら、形成された搬送経路43aを介してピンチローラ15とグリップローラ40との間に搬送される。このとき、図示はしないが、ガイド板41bの記録紙搬送経路の近傍に取り付けられた記録紙搬送位置検出部としてのセンサーによって、記録紙6が正常に搬送されているか否かが検出され、この検出結果に応じて、制御基板22aに設けられた主要制御部であるCPU81（図3参照）によってプリント動作開始の有無が決定される。正常に搬送されていない場合には、CPU81は、本体カバー2に設けられた表示部2eにエラー表示等を行わせ、そうでない場合には、プリント動作を開始するように駆動制御を行う。

プリント動作を開始すると、ピンチローラ15とグリップローラ40とによって記録紙6が挟持され、CPU81によって記録紙送り／リボン送り機構の駆動が制御されて、表面に滑り止め手段が施してあるグリップローラ40の回転駆動により、プリント時における記録紙6の搬送が調整される。つまり、記録紙6の先端部分がガイド板13a、13bにより形成された記録紙搬送経路44を介して搬送され、記録紙6の後端部分がサーマルヘッド20とプラテンローラ14とにおけるプリント開始地点に到達するように記録紙6の搬送が制御される。

プリント時に、グリップローラ40及びピンチローラ15による回転により、

この記録紙6とインクリボン7aとをサーマルヘッド20とプラテンローラ14との間で押圧しながら移送して、パワー基板22b上に設けられた制御回路によってサーマルヘッド20の発熱体に電流を流すことにより、インクリボン7aの熱転写インクを溶解又は昇華して、記録紙6に転写してプリントを行う。このプリント時には、同時に、インクリボン送り制御用の回路によって、プリント時に必要なインクリボン7aの送りも制御される。

この場合、インクリボン7aの一色目のイエロー（Y）を記録紙6にプリントするときには、ピンチローラ15とグリップローラ40とで記録紙6を図中左側方向に移送し、且つこの記録紙6とインクリボン7aとをサーマルヘッド20とプラテンローラ14との間で押圧しながら移送して、サーマルヘッド20の発熱体（図示せず）にイエロー（Y）に応じた画像情報信号を供給している。

また、このときの記録紙6の先端部は、U字形のガイド板13aとその内側に配設された同形状のガイド板13bとで構成される記録紙搬送経路44内にあり、一方、記録紙6の後端部分は、搬送経路43aを介してガイド板41cに取り付けられたテープ部材42を押し下げながら記録紙搬送経路43bに移送され、一色目のプリントが実施される。

なお、プリント時におけるサーマルヘッド20の位置は、例えば3つのポジション（上部に移動した位置、図中に示すように下部に移動した位置、そして、それらの中間位置となる待機状態時のパーシャル位置）となるようにサーマルヘッド駆動機構によって切換動作が可能であり、プリント動作に応じて、CPU81によりその位置が制御されるようになっている。

そして、記録紙6への一色目のイエロー（Y）のプリントが終了すると、CPU81は、サーマルヘッド駆動機構（図示せず）を駆動制御して、サーマルヘッド20をプラテンローラ14側から離間させてパーシャル位置に移動させる一方、ピンチローラ15及びグリップローラ40とで記録紙6をプリンタ装置1の後方（図中右側方向）に戻し、次に、以降上記の動作を繰り返して二色目のマゼンタ（M）、三色目のシアン（C）、透明のオーバーコート（OP）の順に、記録紙6上に各色を順次重ね合わせてカラープリントを行う。

なお、各色のプリントが開始されるまでの間、記録紙6はグリップローラ40

とピンチローラ 15 によって該プリンタ装置 1 の後方側（図中右側方向）に移送されることになるが、このとき、記録紙 6 の先端部は、U 字形状のガイド板 13 a、13 b との記録紙搬送経路 4 4 内に案内されながら移送され、図示しないセンサーによって該記録紙 6 の後端部分が検出されると、この検出結果に基づきピンチローラ 15 及びグリップローラ 40 による回転制御によって、記録紙 6 の後端部がサーマルヘッド 20 とプラテンローラ 14 とのプリント開始位置にセットされる。

また、サーマルヘッド 20 の発熱抵抗体が記録紙 6 にインクリボン 7 a の各熱転写インクを転写する際に、サーマルヘッド 20 の発熱抵抗体に対するプラテンローラ 14 の接触位置が正規の位置ではなく、位置ずれが生じてしまった場合には、この位置ずれに対応した一對のブッシュ 50 を選択して交換することにより、プラテンローラ 14 の回転軸の中心位置を偏心させて、正規の位置に調整することも可能である。

こうして、各色全てのプリントが終了すると、プリントされた記録紙 6 は、図示しない排出用の紙送り機構によって、記録紙搬送経路 4 3 b を通って装置外部に排出され、プリント動作が完了する。なお、プリント完了後における記録紙 6 の排出は、記録紙搬送位置検出部としての他のセンサーによって検出されるようになっており、該検出結果が CPU 8 1 に供給されることによって、1 画面のプリントが完了したタイミングが認識される。

ところで、このような構成の本実施の形態のプリンタ装置では、上述したように、携帯用のプリンタ装置を実現するために、電源としてバッテリーを用いているが、バッテリーの消耗度に依存した大きな電圧降下にも対応して十分に安定した画質でのプリントを行うための工夫がなされている。これにより、電源としてバッテリーを用いた場合でもプリント性能の向上を図り、且つ携帯用として好適な低コストでの小型化が可能である。これを実現するための構成について、図 3 から図 7 を参照して説明する。

このプリンタ装置 1 は、電源としてバッテリーを用いた場合でもプリント性能が向上するように、各色成分のインクをそれぞれ記録紙 6 に印刷する直前のタイミングにおいて、バッテリー 8 からの電力をサーマルヘッドに供給し、その直後の所

10054667-111301

定のタイミングでこの電圧値を検出するとともに、この検出結果に対応してサーマルヘッドにおけるインクの印刷濃度をバッテリー 8 からの供給電圧の高低に関わらず一定とするための補正を行うようになっている。

プリンタ装置 1 は、図 3 に示すように、パラレルポートインターフェース 8 0、制御手段としての CPU 8 1、プリント情報読み込み部 8 2、メモリ 8 3、液晶コントローラ 8 4、操作ボタン 3 0 及びキーインターフェース 8 6、プリントコントローラ 8 7、バッテリーコントローラ 8 8、記録紙搬送位置検出部 8 9、サーマルヘッド 2 0、温度測定部 2 0 a、バッテリー 8 及び表示部 2 e を少なくとも含んで構成されている。

パラレルポートインターフェース 8 0 は、パーソナルコンピュータ 7 0 と接続して、該パーソナルコンピュータ 7 0 との電子データの授受を行うための通信手段であり、パーソナルコンピュータ 7 0 から印刷対象画像信号を取り込む場合には、このパラレルポートインターフェース 8 0 によって装置内に取り込まれる。

プリント情報読み込み部 8 2 は、第 1、第 2 のメモ리카ード 9 a、9 b（両方を合わせてメモ리카ード 9 と呼ぶ）を着脱自在に装着して、該メモ리카ード 9 a、9 b から印刷対象画像信号やプリント制御情報などをプリンタ装置 1 内に読み込み、あるいはそのメモ리카ード 9 a、9 b に対して書き込み等を行うものであり、第 1、第 2 のソケット 8 2 a、8 2 b と、第 1、第 2 のメモ리카ード用インターフェース 8 2 c、8 2 d と、を有して構成されている。

第 1 のソケット 8 2 a には第 1 のメモ리카ード 9 a（SM）が着脱自在に装着されるようになっており、該第 1 のソケット 8 2 a に電気的に接続される第 1 のメモ리카ード用インターフェース 8 2 c によって、第 1 のメモ리카ード 9 a に記憶された印刷対象画像信号やプリント制御情報が CPU 8 1 に取り込まれるようになっている。また、第 1 のメモ리카ード用インターフェース 8 2 c によって、第 1 のソケット 8 2 a を介し第 1 のメモ리카ード 9 a に書き込み等を行うための画像情報信号を供給することも可能である。

また、第 2 のソケット 8 2 b には第 2 のメモ리카ード 9 b（CF）が着脱自在に装着されるようになっており、該第 2 のソケット 8 2 b に電気的に接続される第 2 のメモ리카ード用インターフェース 8 2 d によって、第 2 のメモ리카ード 9

bに記憶された印刷対象画像信号やプリント制御情報がCPU81に取り込まれるようになっている。また、第2のメモリカード用インターフェース82dによって、第2のソケット82bを介し第2のメモリカード9bに書き込み等を行うための画像情報信号を供給することも可能である。

メモリ83は、CPU81の制御の下で、前記第1又は第2のメモリカード9a、9bからの印刷対象画像信号や、パーソナルコンピュータ70からのデータを読み込んで、記憶する記憶手段である。

液晶コントローラ84は、CPU81の制御の下で、表示手段としての表示部2e（例えばLCD等の液晶表示器）に液晶表示信号及び液晶制御信号を供給して、該表示部2eにおける表示画像をコントロールするものである。

キーインターフェース86は、操作ボタン30からの指示信号をCPU81に伝えるものであり、例えばプリント実行ボタン30bの押下によりプリント実行が指示されると、このプリント実行を示す指示信号がCPU81に供給される。

プリントコントローラ87は、サーマルヘッド20にプリント用信号及びプリント制御信号を供給してプリント動作を制御するとともに、このプリント動作に合わせて図示しない記録紙送り／リボン送り機構の駆動を制御する。

バッテリーコントローラ88は、バッテリー8からの電力を各ブロックに対応した所定値に変換した後にこの電力をCPU81に供給するとともに、サーマルヘッド20に対してはバッテリー8のそのままの電圧値（例えば7.6V）で電力を供給するものである。また、バッテリーコントローラ88は、プリントの開始前にバッテリー8のバッテリー容量を検出して、検出したバッテリー残量情報をCPU81に伝えるとともに、インクリボン7aの各色のインクをそれぞれ記録紙6にプリントする直前のタイミングにおいてバッテリー8からの電力がサーマルヘッド20に供給された直後の所定のタイミングでこの電圧値を検出し、検出結果をCPU81に伝える。

前記サーマルヘッド20には、その近傍にこのサーマルヘッド20の温度を測定するための温度設定部20aが設けられており、この温度測定部20aは、常時、サーマルヘッド20の温度、詳しくはサーマルヘッド20の発熱体の温度を測定して、測定結果をCPU81に供給する。

記録紙搬送位置検出部 8 9 は、記録紙搬送経路上の記録紙 6 の吸い込み位置及び排出位置近傍に配設された複数のセンサーを含んで構成されたものであり、これら複数のセンサーによって記録紙 6 の吸い込みタイミング及び排出タイミングに基づく各タイミング信号を得て、CPU 8 1 に供給する。

制御手段としての CPU 8 1 は、内部に少なくとも演算処理部 8 1 a、バッテリーチェック部 8 1 b、及び電圧補正部 8 1 c を備えて構成されたものであり、パーソナルコンピュータ 7 0 からの通信データの解読や操作ボタン 3 0 からの操作データの解読、第 1 又は第 2 のメモリカード 9 a、9 b からのプリント制御情報の解読、パーソナルコンピュータ 7 0 又は第 1、第 2 のメモリカード 9 a、9 b からの印刷対象画像データの画像メモリ 8 3 への記憶、表示部 2 e への表示、サーマルヘッド 2 0 の印画制御及び印加電圧補正制御、図示しない記録紙送り／リボン送り機構の駆動、バッテリー 8 の残量算出及びプリンター一枚分のバッテリー容量の有無判定などを制御するものである。

また、CPU 8 1 は、プリントを実行する際に、前記バッテリーチェック部 8 1 b によって、前記バッテリーコントローラ 8 8 から検出されたバッテリー容量を元に少なくとも 1 枚分のプリントが可能であるか否かの判定を行い、容量不足により 1 枚分のプリントが可能でない（つまり、バッテリー 8 の残量がプリントに必要な電圧以下である）と判断された場合には、プリント動作を中断するようにプリントコントローラ 8 8 を制御すると同時に、その旨を表示部 2 e に表示させるように液晶コントローラ 8 4 を制御する。

さらに、CPU 8 1 は、サーマルヘッド 2 0 の印加電圧補正制御に関し、前記バッテリーコントローラ 8 8 を用いて、インクリボン 7 a の各色のインクをそれぞれ記録紙 6 にプリントする直前のタイミングにおいてバッテリー 8 からの電力がサーマルヘッド 2 0 に供給された直後の所定のタイミングでこの電圧値を検出するように制御するとともに、演算処理部 8 1 a 及び電圧補正部 8 1 c を用いてこの検出された検出結果に対応してサーマルヘッド 2 0 におけるインクの印刷濃度をバッテリー 8 からの供給電圧の高低に関わらず一定となすべく補正するように制御する。

演算処理部 8 1 a は、前記バッテリーコントローラ 8 8 からのサーマルヘッド 2



0の検出結果を元に、印加電圧補正に必要な演算処理を行うもので、例えば、熱履歴補正、シャープネス補正、印画率補正及び温度補正等の各種補正処理を実行するための演算処理をそれぞれ行い、各演算処理結果を得る。

また、電圧補正部81cは、インクリボン7aの各色のインクのプリント毎の直前のタイミングにおいてバッテリー8からの電力がサーマルヘッド20に供給された直後の所定のタイミングで検出した電圧値に基づき、内部に搭載した電圧補正マップデータを用いて、バッテリー8の消耗度に依存した大きな電圧降下にも対応して十分に安定した画質での印刷ができる最適な、サーマルヘッド20に対する通電時間を決定する。

すなわち、CPU81は、各種の補正処理演算処理結果と前記電圧補正処理結果とを元に最終的に決定される補正結果に基づき、サーマルヘッド20に対する通電時間を調整するようにプリントコントローラ87及びバッテリーコントローラを制御する。これにより、サーマルヘッド20におけるインクの印刷濃度がバッテリー8からの供給電圧の高低に関わらず一定となり、バッテリー8の消耗度に依存した大きな電圧降下にも対応して十分に安定した画質での印刷が可能となる。

なお、本実施の形態では、一般に記録紙6に対する印刷濃度がサーマルヘッド20の発熱体の温度によって決定されることから、印刷開始直後のようにサーマルヘッドが冷えた状態、あるいは過酷な周囲環境でも印刷濃度を低くすることなく安定した印刷品位を確保するために、CPU81は、前記バッテリーチェック部81bによるバッテリーチェック動作と同時に、バッテリー8からの電力をサーマルヘッド20に供給し、つまり、サーマルヘッド20の発熱体に電流を流してプレヒートを行うようにバッテリーコントローラ88を制御するようにしている。

また、バッテリーチェックの際に必要な負荷としてサーマルヘッド発熱体を流用しているために、バッテリーチェック専用の特別な負荷が必要なくなり、装置の小型化に大きく寄与することができる。

次に、図3に示すプリンタ装置の特徴となる制御動作について図4から図7を参照しながら詳細に説明する。

いま、図1に示すプリンタ装置1において、ユーザによる電源ボタン30aの押下によって該装置の電源が投入されたものとする。

すると、CPU 8 1は、図2を参照して説明したようなプリントに関する一連の基本的な動作を実行するためのルーチンを実行させる。つまり、CPU 8 1は、図4に示す処理ルーチンを起動させ、まず、ステップS 1の処理で、プリントに先だって、該プリンタ装置1全般において、電氣的、機械的に初期化を行い、処理を次のステップS 2に移行する。

ステップS 2では、CPU 8 1は、バッテリーチェックを実行する。このバッテリーチェックは、プレヒートを兼ねている。すなわち、CPU 8 1は、バッテリーチェック部8 1 bによって、バッテリーコントローラ8 8から検出されたバッテリー容量をチェックすると同時に、バッテリー8からの電力をサーマルヘッド2 0に供給し、つまり、サーマルヘッド2 0の発熱体に電流を所定期間だけ流してプレヒートを行うようにバッテリーコントローラ8 8を制御する。すなわち、バッテリーチェックを行うための負荷としてサーマルヘッド発熱体を利用している。

例えば、この場合、CPU 8 1は、図5に示すようにバッテリー8の電圧が7. 6 Vだとすると、時刻T 1から時刻T 2の所定期間、サーマルヘッド2 0の発熱体に通電させてプレヒートを行うようにバッテリーコントローラ8 8を制御すると同時に、この期間内のバッテリー8の電圧（例えば6. 6 V）をバッテリーチェック用として取得する。

また、サーマルヘッド2 0に対する通電は、例えば図6に示すように複数回のパルス状となるように行われるようになっており、プレヒート期間においては、図6に示すように、例えば6 m s e cの期間、所定値の電流を通電し、2 m s e cの期間休止した後に再度同じような期間通電し、すなわち、このようなパルス状の通電を8 m s e cのサイクルで複数回実行することになる。これにより、印刷開始直後のようにサーマルヘッドが冷えた状態、あるいは過酷な周囲環境でも印刷濃度を低くすることなく安定した印刷品位を確保するためのプレヒートを実行することが可能となり、このプレヒートによってサーマルヘッド2 0の発熱体が発熱することになる。

そして、CPU 8 1は、処理を続くステップS 3に移行し、該判断処理で前記ステップS 2のバッテリーチェックによって取得した電圧値（図6中の時刻T 1～時刻T 2の期間の電圧値）を元に、少なくとも1枚分のプリントが可能であるか

否かの判定を行い、容量不足により1枚分のプリントが可能でない（つまり、バッテリー8の残量がプリントに必要な電圧（例えば6.6V）以下である）と判断された場合には、ステップS4の処理でプリント動作が不可であることを表示部2eに表示させるように液晶コントローラ84を制御した後に、続くステップS5の処理において該プリント動作の実行を中止するために、電源を遮断するようにバッテリーコントローラ88を制御する。すなわち、CPU81は、この処理を実行することで、該プリンタ装置1において、バッテリーの充電待ち状態、あるいはDCコネクタ10によるAC電源の供給待ち状態にさせる。

一方、前記ステップS3の判断処理で、バッテリーチェックによって取得した電圧値（図6中の時刻T1～時刻T2の期間の電圧値）が、少なくとも1枚分のプリントが可能となるような電圧（例えば6.6V）以上であると判断された場合には、CPU81は、ステップS6の処理において、バッテリー8がプリント実行可能な電圧を有していることを示す表示を表示部2eに表示させるように液晶コントローラ84を制御する。

その後、CPU81は、処理を続くステップS7に移行し、この判断処理でキーインターフェース86を介して供給された指示信号を認識することにより、プリントボタン30bが押下されたか否かを判断し、プリントボタン30bが押下されていない場合にはプリントボタン30bが押下されるまで該判断処理を行う。一方、この判断処理で、ユーザによってプリントボタン30bが押下されたと判断した場合には、CPU81は、処理を続くステップS8に移行し、該処理によって前記ステップS2と同様に再度バッテリーチェック及びプレヒートを行うように制御した後、続くステップS9の処理で前記ステップS6の処理と同様にバッテリー8がプリント実行可能な電圧を有していることを示す表示を再度表示部2eに表示させるように液晶コントローラ84を制御し、処理をステップS10に移行する。

ステップS10の処理では、CPU81は、プリント実行に伴い、記録紙搬送位置検出部89からの検出結果を利用して記録紙送り／リボン送り機構の駆動を制御することにより、記録紙6の先端部分がガイド板13a、13bにより形成された記録紙搬送経路44を介して搬送され、記録紙6の後端部分がサーマルヘ

10054657.111301

ッド20とプラテンローラ14とにおけるプリント開始地点に到達するように記録紙6の搬送が調整される(図2参照)。

その後、CPU81は、本実施の形態の特徴となる補正処理を実行するためのステップS11に移行し、該処理において無負荷の状態でのバッテリー電圧を検出して取得する。すなわち、CPU81は、インクリボン7aの各色のインクをそれぞれ記録紙6にプリントする直前のタイミングにおいてバッテリー8からの電力がサーマルヘッド20に供給された直後、つまり、図6に示す時刻T2の経過直後の所定のタイミングでこの電圧値を検出し、検出結果を電圧補正用の取得電圧値としてCPU81内に取り込む。

なお、前記直前のタイミングとは、図5に示すように、前記ステップS8の処理によってサーマルヘッド20のプレヒート実行のためにバッテリー8からの電力をサーマルヘッド20に時刻T1～時刻T2までの期間通電した後にこの通電を遮断し、遮断した直後から電圧値が略一定の値を示す期間内(時刻T2～時刻T4)におけるタイミングであり、さらに詳しくは、例えば図5に示すように遮断した直後を意味する時刻T2から5～10msecの期間内(時刻T2～時刻T3までの期間内)におけるタイミングである。このように、CPU81は、このタイミングでサーマルヘッド20の印加電圧を検出して、取り込むようにしている。また、この印加電圧を取得する時刻T1～時刻T2の期間におけるサーマルヘッド20の通電は、前記プレヒート期間においてサーマルヘッド20に通電される際のパルス数よりも少ないパルス数で行われるものである。

その後、CPU81は、処理を続くステップS12に移行し、該処理において補正演算処理を行うように制御する。例えば、この処理において行われる補正演算処理としては、熱履歴補正処理、シャープネス補正処理、印画率補正処理、温度補正処理及び本実施の形態の特徴となる電圧補正処理等がある。

上記熱履歴補正処理は、次のような補正を行うものである。すなわち、サーマルヘッド20は、通常画素に対応した複数の発熱体から構成されていて、隣接する発熱体同士間で熱の影響を受けてプリント濃度を正確に再現することができない可能性がある。そこで、熱履歴補正処理は、これを予め予測して、サーマルヘッド20に対する印加電流の時間を調整することにより補正するものである。

上記シャープネス補正処理は、プリント画のエッジを強調するために、サーマルヘッド20に対する印加電流の時間を調整することにより補正するものである。

上記印画率補正処理は、次のような補正を行うものである。すなわち、サーマルヘッド20は上述したように複数の発熱体を備えているために、通常、抵抗としての発熱体が何個オンしているかを検出し、検出結果に応じて電圧を調整する必要があるが、バッテリー8は電圧値が決まっているために、この電圧調整を行うことができない。そこで、印画率補正処理は、1ライン中に同時にオンしている発熱体を検出して、それらの電流の印加時間を調整することにより、複数の発熱体のオン/オフによる全抵抗値の変動が生じた場合でも、印刷輝度を確実に再現することができるようにするための補正処理である。

上記温度補正処理は、サーマルヘッド20の温度や周囲温度に応じて、サーマルヘッド20の印画時間を調整するものであり、例えば温度が低い場合には長く、逆に高い場合には短くするように補正を行う。

これらの補正処理は、CPU81の演算処理部81aによって、適宜、演算処理され、各種の補正を行うのに必要なサーマルヘッド20の印加電流調整時間が算出される。

さらに、本実施の形態では、サーマルヘッド20による記録紙6に対する印刷濃度をより安定させて高品位なプリント画を得るために、電圧補正処理が行われる。

つまり、CPU81は、前記ステップS11において取得した電圧値（あるいは電圧値及び温度測定部20aの測定結果）を元に、電圧補正部81c内に設けられた電圧補正用テーブル（図7参照）を用いて、サーマルヘッド20に対する印加電流調整時間を得るための補正係数の演算処理を実行させる。

例えば、本実施の形態では、図7の電圧補正用テーブルの特性図に示すように、バッテリー8の保証されている最低可動電圧の印加率を100%とし、取得した電圧値が上がる度にその%（印加率）を下げるように、電圧補正部81cによって、サーマルヘッド20の印加電流調整時間を得るための補正係数の演算処理が実施される。

なお、本実施の形態では、前記最低可動電圧値については、図7に示すように例えば6.9Vと設定されており、つまり、前記ステップS11において取得した電圧値が前記最低可動電圧値6.9Vである場合には最大濃度(100%)でプリント行うように設定されたものである。また、本実施の形態では、前記最低可動電圧値が6.9Vに設定された場合について説明したが、これに限定されるものではなく、印画濃度が100%に達成可能な最低電圧値であれば良い。

また、本実施の形態では、CPU81は、前記ステップS11による取得電圧が前記最低可動電圧6.9Vを下回った場合であって且つ温度測定部20aの測定結果によりサーマルヘッド20の温度が高いと判断した場合には、100%を越えない範囲での過補正(図7中の図示しない特性ライン延長上を想定)を行うように電圧補正部81cを制御して、前記補正係数の演算処理を実行することも可能である。この場合、最低可動電圧値6.9Vを下回った電圧値に対応する補正係数が最大濃度を越える仮想濃度値であってこの仮想濃度値と前記温度設定部20aの測定結果に基づく補正係数による濃度値との積が最大濃度100%を越えない範囲で仮想濃度値が設定されることになる。

このようにして、CPU81は、前記ステップS12の補正演算処理で、演算処理部81a及び電圧補正部81cを用いた各補正演算処理を行うことにより、プリントデータに応じて確実且つ安定した印画濃度でプリントするためのサーマルヘッド20の印加電流調整時間が求められ、続くステップS13の処理において、この補正された印加電流調整時間に基づきサーマルヘッド20を駆動させて一色目(Y)の1ラインのプリントを開始するようにプリントコントローラ87を制御する。

このような動作で発熱体によって記録紙幅方向の所定ライン数のプリントが行われると、記録紙6及びインクリボン7aが搬送され、次の所定ライン数のプリントが実行される。以後、同様に、サーマルヘッド20によるプリントと記録紙6及びインクリボン7aの搬送とが繰り返されてプリントが行われる。

そして、CPU81は、続くステップS14の判断処理において、全ラインのプリントが終了したか否かを判定し、終了していないものと判定された場合には処理を前記ステップS12に戻し、終了したものと判断した場合には処理をステ

ップS15に移行する。

前記ステップS15の判断処理では、CPU81は、用紙を印刷初期位置に戻すとともに、透明のオーバーコート(OP)が終了したか否か(Y, M, C, O Pの各色(4回)のプリントが終了したか否か)を判定し、終了してないものと判断した場合には、CPU81は、処理を前記ステップS11に戻す。すなわち、前記ステップS11～ステップS14のルーチンは、一色目のイエロー(Y)、二色目のマゼンタ(M)、三色目のシアン(C)、透明のオーバーコート(OP)の各色毎に実行されるようになっている。

一方、前記ステップS15の判断処理で、終了したと判断した場合には、CPU81は、印刷済みの用紙を排出するとともに、処理を前記ステップS7に戻すことにより、該プリンタ装置1をプリント実行ボタン30bの入力待ち状態にさせる。

なお、本実施の形態において、図7に示す電圧補正演算処理のためのテーブルデータ(補正係数ともいう)は、3原色(Y, M, C)の色成分のインクのプリントの際と、記録紙の表面保護のための透明のオーバーコート(OP)のプリントの際とで、全て同じ特性のものが用いられるようになっている。また、この電圧補正用のテーブルデータは、図7に示す特性のみに限定されるものではなく、例えば特性の異なる複数のテーブルデータを設けて、使用する環境温度に応じて適宜選択し、選択したテーブルデータを用いて各色4回のプリントを実行する前に電圧補正を行うように構成しても良い。これにより、使用する環境温度が変わっても安定したプリント性能を得ることが可能である。

また、本実施の形態において、バッテリー8は充電完了後に安定した所定の電圧値を有するものであり、前記最低可動電圧値は充電完了後の所定の安定した電圧値よりも低いものになっている。例えば、本実施の形態では、バッテリー8の充電完了後の安定した電圧値として図5に示すように7.6Vとして説明したが、実際には、充電完了直後に無負荷で測定すると8V、一枚のプリントした後は7.4Vとなり、その後、十分な容量がある間はずっとその電圧値7.4Vであり、そして容量が大きく減ってくると、7.4Vから降下する特性となる。このために、本実施の形態では、この7.4Vでのプリントを標準的なプリント状態と設

定する一方で、上述したように、プリント可能な下限値（最低可動電圧値）として6.9Vを設定し、この6.9Vでのプリント時を最大濃度のプリントとするように設定される。

従って、このような第1の実施の形態によれば、上記のようにカラー印刷を行う各色インクの転写の直前毎に、バッテリー8からの供給電力をサーマルヘッド20である負荷に通電させ、この通電を遮断した直後にある期間だけ電圧が安定的に測定可能であるという特性に着目し、このタイミングで電源を巧みに検出し、その検出結果に基づき、印刷濃度を安定させるべくサーマルヘッド20への通電の補正を行うように制御し、さらには、最低可動電圧値である6.9Vより所得した電圧値が低い場合であってもサーマルヘッド20の温度が十分に高ければ、その分だけサーマルヘッドに印加する電力を低減できることに着目し、その場合であっても最大濃度を越える仮想濃度値を過渡的な演算上で設定して最終的な補正係数が最大濃度を越えない範囲で安定した印刷が可能となるように補正制御することにより、携帯用のプリンタ装置におけるプリント可能範囲を拡大させることが可能となるとともに、十分に安定した画質でのプリントを行うことが可能となることで、プリント性能向上に大きく寄与する。

また、バッテリーチェック動作や、電圧検出の際に使用する負荷としてサーマルヘッド20を巧みに利用することにより、サーマルヘッドのプレヒートを行うこともできて、必要な熱エネルギー発生のためのトータルのバッテリー使用量を軽減でき、ひいては、同じ容量のバッテリーを使用してもよりプリント枚数の増加を図ることが可能となる。

これにより、従来技術にはない、使い勝手の良い高性能な携帯用のバッテリー駆動方式の感熱転写型のプリンタ装置を提供することが可能となる。

図8から図14は本発明に係るプリンタ装置の第2の実施の形態を示したものであり、図8はプリンタ装置に搭載された主要部分の電気的な回路構成を示すブロック図、図9は印画する1ライン中の階調データにおけるヘッドオン数と階調との関係を示す線図、図10は他の1ライン中の階調データにおけるヘッドオン数と階調との関係を示す線図、図11は特徴となる印画率補正方法を説明するための線図、図12は印画率補正処理で使用される印画率補正係数のテーブルデー



タを示す特性図、図 1 3 は携帯用として適した熱昇華型プリンタ装置の基本構成の概略を示す回路図、図 1 4 は印画率補正処理に使用される印画率補正係数のテーブルデータを示す特性図である。この第 2 の実施の形態において、上述した第 1 の実施形態と同様である部分については同一の参照符号を使用することにより説明を省略する。また、この第 2 の実施の形態においては、上述した第 1 の実施の形態の図面を必要に応じて使用する。

この第 2 の実施の形態のプリンタ装置は、上記図 1 や図 2 に示したような、携帯用とするためにバッテリー電源を用いた構成となっていて、この構成において、電流値の補正幅が広くならざるを得ない場合でも、高精度な補正処理を行うことにより、十分に安定した画質でプリントすることができるように改良したものである。

すなわち、この第 2 の実施形態のプリンタ装置 1 は、図 8 に示すように、電源としてバッテリーを用いた場合でもプリント性能を向上させるために、印刷するカラー画像に基づく画像データの内の 1 ライン分の画像データにおける各階調毎の印画率を算出し、この印画率に基づく第 1 の補正値を決定し、1 ライン分の画像データを印刷する際にサーマルヘッド 20 の発熱素子を発熱させて印刷動作を行わせる各発熱素子毎の階調データの全発熱素子分の全データに基づいて演算を行いこの演算結果に基づく第 2 の補正値を決定し、決定したこれら第 1 及び第 2 の補正値に基づいてサーマルヘッド 20 の各発熱素子の発熱量を制御することにより、高精度な補正処理を行うようになっている。

制御手段としての CPU 8 1 は、内部に少なくとも演算処理部 8 1 a 及びバッテリーチェック部 8 1 b を備えて構成されたものであり、演算処理部 8 1 a は、少なくとも第 1 の補正値決定部 8 1 d と第 2 の補正値決定部 8 1 e とを含むとともに、さらに上記電圧補正部 8 1 c をも含んで構成されている。

この CPU 8 1 は、印画率補正処理を実行する場合には、演算処理部 8 1 a の第 1 補正値決定部 8 1 d が、画像データの内の 1 ライン分の画像データにおける各階調毎の印画率を算出し、この印画率に基づく補正値を決定し、第 2 の補正値決定部 8 1 e が、前記 1 ライン分の画像データを印刷する際に、発熱素子毎の階調データの全発熱素子分のデータに基づいて演算を行い、この演算結果に基づく

補正值を決定する。

すなわち、これら第1及び第2の補正值決定部81d、81eによって、第2の実施の形態の特徴となる印画率補正処理を実行するのに必要な前記2つの補正值が演算処理結果として得られることになり、その後、CPU81が、得られた2つの補正值に基づいて、サーマルヘッド20の各発熱素子の発熱量を制御する。

こうして、サーマルヘッド20におけるインクの印刷濃度がバッテリー8からの供給電圧の高低に関わらず一定となり、バッテリー8の消耗度に依存した大きな電圧降下にも対応した補正を行うことができるとともに、高精度な補正処理を行うことができるために、十分に安定した画質での印刷が可能となる。

次に、この第2の実施の形態におけるプリント装置1の作用について、上述した第1の実施の形態と異なる部分に主として着目し、説明する。

上記CPU81が、上記図4のステップS12において行う補正演算処理としては、例えば、熱履歴補正処理、シャープネス補正処理、電圧補正処理、温度補正処理などがあり、さらに、この第2の実施の形態の特徴となる印画率補正処理等がある。こうした補正処理を行うことにより、サーマルヘッド20による記録紙6に対する印刷濃度を安定させて、高品位なプリント画を得ることができるようになっている。

ここに、印画率補正処理は、次のような補正を行うものである。すなわち、サーマルヘッド20は上述したように複数の発熱体を備えているために、通常、抵抗としての発熱体は何個オンしているかを検出して、それに応じて電圧調整をする必要があるが、バッテリー8は電圧値が決まっているために、電圧調整を行うことができない。そこで、印画率補正処理は、1ライン中に同時にオンしてる発熱体を検出して、それらの電流の印加時間を調整して複数の発熱体をオン／オフすることにより、全抵抗値の変動が生じた場合でも、印刷濃度を確実に再現することができるようにする補正処理である。

すなわち、この第2の実施の形態では、印画を行う1ラインを見た場合に、この1ライン内の全ての印画画素が保有する階調データ全てを把握して、その把握結果から残留熱に対する補正值を求めるものであって、各画素単独それぞれでの

残留予測とは異なるものである。なお、この第2の実施の形態では、この補正值が1ライン内の全ての印刷画素・階調値に対して同じものであるとして説明するが、本発明はこれに限定されるものではなく、異なった数値の補正值を用いるように構成しても良い。

さらに詳細に説明すると、CPU81は、印画率補正処理を実行するに際して、まず、演算処理部81aの第1の補正值決定部81dを用いて、画像データの内の1ライン分の画像データにおける各階調毎の印画率を算出し、この印画率に基づく補正值を決定する。

つまり、図13及び図14に示すように、携帯用として最適な構成（例えば電源電圧7.6V、サーマルヘッド抵抗値750Ω）のプリンタ装置における印画率補正処理と同様に、CPU81は、第1の補正值決定部81dを制御して、最低電流（ヘッドオン数Nが960のときの電流）を100%とし、ヘッドオン数が1である場合の補正值を、上述した数式2、数式3で求められた数値から算出し、該演算処理部81a内に設けられた印画率補正係数データ（図12及び図14参照）を用いて43.9%といった補正值の演算処理を行う。

なお、この第2の実施の形態における印画率補正処理では、サーマルヘッド20に印加するのは上述したようにパルス状の電流であり、この通電中においては、CPU81の制御によって、電圧値および電流値は常に一定になるように制御される。すなわち、1ラインの発熱素子数が960であって、かつ階調数が最大128までであるとすれば、1ラインの1階調目についてみると、その1階調目に960の内の幾つの発熱素子がオンしているのかを検出して、上記図13及び図14において説明したような電流値の補正処理を行う。この場合、理論上は電流値を減少させなければならないが、実際には電流値を一定として、印加するパルス数を減らすことにより、電流値を減らしたのと同等の印画結果を得るようにしている。すなわち、電圧値および電流値は常に一定に固定して、見かけ上の電流値の要減少分をパルス数を減らすことで代替することになる。

例えば、各階調での印加パルス数が最大100回とすると、CPU81は、電流を全く減じる必要のない場合には、100回のパルスをサーマルヘッド20に印加するようにプリントコントローラ87を制御し、また多少でも減じる必要が

ある場合には、それに対応してパルス数を100回より少なくするようにプリントコントローラ87を制御する。1階調目の印画では、上述した補正（前記第1の補正值決定部81dにより得られた補正值に基づく補正）の結果、電流減少要求値が算出されることから、CPU81は、この要求値に相当するパルス数の減少化を行うようにプリントコントローラ87を制御する。例えば、30%減とすれば70回のパルス数での印加を行い、1階調目の印画を終了させる。

続いて、2階調目の印画に入ると、CPU81は、再び1階調目と同様に、第1の補正值決定部81dを用いて、960の内の幾つの発熱素子がオンしているかを検出し、同様の印画率補正処理を行う。この場合、1階調目と2階調目とでオンする発熱素子の数が同じである場合には、同じ電流値の補正值となり、減少していれば補正值は1階調目とは異なる値、すなわち異なるパルス数となる。

ところが、このままの補正值に基づく印画率補正処理では、上記関連技術で述べたように補正幅が大きくなってしまい、高精度な補正処理を行うことができない。

例えば、図9及び図10の1ライン分の階調データ例を用いて説明すると、図9に示す一例では、印刷する画像データの1ライン分の印刷時の場合に、サーマルヘッド20の960ドット分の内、120ドットが10階調（例えば最高階調を127階調とした場合）であり、残る840ドットが120階調になっている。この場合、図9に示すように、0～9階調は960個の全ドットがオンし、10～119階調は840個のドットがオン、120階調以上はオンしているドットは無しとなっている。

一方、図10に示す一例では、印刷する画像データの1ライン分の印刷時の場合に、サーマルヘッド20の960ドット分の内、120ドットが24階調（例えば最高階調を127階調とした場合）であり、残る840ドットが36階調になっている。この場合、図10に示すように、0～23階調は960個の全ドットがオンし、24～35階調は840個のドットがオン、36階調以上はオンしているドットは無しとなっている。

このように、図9に示す画像データと図10に示す画像データとでは、サーマルヘッドのオンドット数は同じでも、階調が大きいほどヘッド通電時間が長くな

ることから、サーマルヘッドに対する印画時間も異なったものとなる。この場合、上記で算出した同じ補正值を用いて印画率補正を行っても両立はせず、つまり、図9に示す画像データに対し、例えば最適化した補正係数を用いたとしても図10に示す画像データでは過補正になってしまい、高精度な補正処理を実行することができない。

そこで、さらに、この第2の実施の形態では、CPU81は、演算処理部81aの第2の補正值決定部81eを用いて、前記1ライン分の画像データを印刷する際にサーマルヘッド20の発熱素子を発熱させて印刷動作を行わせる各発熱素子毎の階調データの全発熱素子分の全データに基づいて演算を行い、この演算結果に基づく補正值を決定する。

具体的には、図11に示すように1ライン分の画像データであるとする、CPU81は、第2の補正值決定部81eを用いて、1ライン全体の加重平均階調  $Ave-A11$  を求め、次に、該加重平均階調  $Ave-A11$  より大きい部分の平均階調  $Ave-Hi$  を求め、そして、該平均階調  $Ave-Hi$  より小さい部分の平均階調  $Ave-Lo$  を求め、最後に得られた(平均階調  $Ave-Hi$ ) - (平均階調  $Ave-Lo$ ) によって最終的な印画率補正係数  $\alpha$  を演算処理するように制御する。この場合の印画率補正演算処理に関する関係式を次の数式6に示す。

【数式6】

$$E' = E \times \alpha$$

ここに、 $E'$  は求める印画率補正後のエネルギー（最終的にはパルス数）、 $E$  は理論上のエネルギー（印画率反映前）、 $\alpha$  は全印画率補正係数（ $0 < \alpha \leq 1$ ）をそれぞれ示している。これらの内の全印画率補正係数  $\alpha$  は、オンするドット数が小さくなるほど0に近づく関係を有している。

【数式7】

$$\alpha = (1 - \beta) \times \gamma + \beta$$

ここに、 $\beta$  は一般的な印画率補正係数（ $0 \leq \beta \leq 1$ ）、 $\gamma$  は今回の新規補正係数（ $0 \leq \gamma \leq 1$ ）である。この新規補正係数  $\gamma$  は、上述した平均階調  $Ave-Hi$  と平均階調  $Ave-Lo$  との差が小さくなるほど、1に近づく関係を有してい

る。

従って、例えば図11において、加重平均階調Ave-Allでのオンドット数が480であるとする、CPU81は、図14に示す印画率補正係数データを用いて演算処理することにより、60%という印画率補正係数を求め、さらに、この印画率補正係数に前記（平均階調Ave-Hi）-（平均階調Ave-Lo）によって決定される印画率補正係数 $\alpha$ を乗じることにより、最終的な補正値を決定することになる。

すなわち、この第2の実施の形態において実行される印画率補正処理では、これら第1及び第2の補正値決定部81d、81eによって、特徴となる印画率補正処理を実行するのに必要な前記2つの補正値が演算処理結果として得られることになり、その後、CPU81によってこれら得られた2つの補正値に基づいてサーマルヘッド20の各発熱素子の発熱量が制御されるようになっている。

なお、この第2の実施の形態においては、上記図7に示した電圧補正演算処理のためのテーブルデータ（補正係数ともいう）だけでなく、図12に示す印画率補正演算処理のためのテーブルデータについても、3原色（Y、M、C）の色成分のインクのプリントの際と、記録紙の表面保護のための透明のオーバーコート（OP）のプリントの際とで全て同じ特性のものが用いられるようになっている。また、これらのテーブルデータは、図7や図12に示す特性のみに限定されるものではなく、例えば特性の異なる複数のテーブルデータをそれぞれ設け、使用する環境温度に応じて適宜選択し、選択したテーブルデータを用いて各色4回のプリントの実行に際し、電圧補正及び印画率補正を行うように構成しても良いことも上述した第1の実施の形態と同様である。

従って、このような第2の実施の形態によれば、上記のようにカラー印刷を行う各色インクの転写の直前毎に、バッテリー8からの供給電力をサーマルヘッド20である負荷に通電させ、この通電を遮断した直後のタイミングで電源を巧みに検出し、その検出結果に基づき、印刷濃度を安定させるべくサーマルヘッド20への通電の補正を行わせるように電圧制御する他に、さらに第1の補正値決定部81dにより画像データの内の1ライン分の画像データにおける各階調毎の印画率を算出し、この印画率に基づく補正値を決定し、第2の補正値決定部81eに

より前記 1 ライン分の画像データを印刷する際に前記発熱素子を発熱させて印刷動作を行わせる各発熱素子毎の階調データの全発熱素子分の全データに基づいて演算を行いこの演算結果に基づく補正値を決定し、CPU 81 によって前記第 1 及び第 2 の補正値決定部 81 d, 81 e で決定された補正値に基づいて前記サーマルヘッド 20 の各発熱素子の発熱量を制御することにより、高精度な補正処理を行うことができるために、十分に安定した画質でのプリントを行うことが可能となって、プリント性能の向上化を図ることができる。

Having described the preferred embodiments of the invention referring to the accompanying drawings, it should be understood that the present invention is not limited to those precise embodiments and various changes and modifications thereof could be made by one skilled in the art without departing from the spirit or scope of the invention as defined in the appended claims.

10054667.111301